

白馬村第5次総合計画 インタビューについて

資料3

■インタビュー目的・概要

基本構想部分の策定に先立って、村民の皆さんの想いや考え方を把握するために、個別インタビューを実施した。ワークショップ開催する前に、出来るだけ村内に知り合いや関係構築をすることによって、その後の意見交換をスムーズになるように推進した。

日時 :平成 27 年 12 月 1 日(火)

平成 27 年 12 月 7 日(月) ~ 12 月 8 日(火)

平成 27 年 12 月 11 日(金) ~ 12 月 12 日(土)

平成 28 年 1 月 25 日(月)

平成 28 年 2 月 2 日(火) ~ 2 月 3 日(水)

平成 28 年 2 月 10 日(水)

会場 :白馬村役場、対象者の自宅、職場等

目的 :白馬村の村民たちの村への想いや考え方などを把握する。白馬村の魅力や課題、今後取り組んでみたいこと等について把握する。ワークショップ前に村内に知り合い、関係性を構築する。

対象者 :白馬村にお住まいの方(計 45 名)

属性 :村長、議員、役場職員(移住者、若者)、経営者(観光、農業、建設)、士業、金融機関関係者、自治会元区長、シニアクラブ、婦人会、消防団、福祉施設スタッフ、仮設住宅居住者代表、市民団体関係者、医者、中高先生、高校生、中学生、スポーツ選手、村内の若者夫婦、サラリーマン、外国人移住者など

質問者 :醍醐、小山、洪、遠藤、日野、厚毛(株式会社 studio-L)

オブザーバー:太田氏(白馬役場職員)

質問項目 :

1. ヒアリング対象者の基礎的な情報(所属、居住地、出身地、ライフヒストリー、家族構成等)
2. 白馬村の魅力、資源
3. 白馬村の課題、悩み
4. 白馬村がどんな村、地域になったら良いと思うか
5. 今後やっていきたいこと
6. 面白い活動をしている団体や人の紹介

インタビューまとめ

村民に対するインタビューの結果を以下に整理する。(1月20日の中間報告後のインタビューも含めて再整理)

■インタビュー結果の要約

- ・ 農産物を生産する上では、気候が良く、自然と美味しいものが出来上がるという意見があった。一方で、耕作放棄地の集約化は進んでいるが、生産者の意識変革や果樹などの白馬の気候に則した生産物を増やしていくなどの課題も挙げられていた。
→関連キーワード: 農業
- ・ 自然などの景観資源の豊かさについて、満足しているという意見がとても多かった。一方で、オリンピック前の先行投資による宿泊業の規模拡大が裏目にて、撤退も含めた整理が行われた。インバウンドによる海外旅行者は増えているが、宿泊業を続けていくための後継者やグリーンシーズンの仕事場があまり村にないため、若い従業員の確保が難しいという課題も挙げられていた。
→関連キーワード: 観光
- ・ 子どもの教育では、地域の皆さんと一緒に育て、地域の資源を有効に活用して地域文化やスポーツの学習する機会があるという意見が多かった。また、白馬高校の国際観光学科の設置など、村内での教育の充実を図る動きも見受けられる。一方で、移住してきた若い共働きの夫婦で、小さい子供を育てている家庭をサポートする施設、制度の充実も必要とされている課題も挙げられていた。
→関連キーワード: 教育・子育て
- ・ これから増加が想定される高齢者に対応する福祉施設、人材(ボランティアも含む)の拡充が求められる。特に、高齢者の除雪や生活する上での買い物補助などの支援が求められている。また、近隣の医療機関へのアクセスが悪いため、今後の高齢者の移動手段、関係各所を連携させた医療体制なども検討する必要がある。一方で、障がい者の村内での活動や雇用場所の確保も拡大していくことが期待されている。
→関連キーワード: 福祉・医療
- ・ 集落内での住民同士のつながりがあり、支えあって暮らしているのが良いという意見が多かった。一方で、日本国内の移住者、現在に至っては海外からの移住者、ビジネスでの土地、施設購入など、村外から入ってくる人たちが多くいるので、継続的に居住ルールなどの再規定が必要となってきた課題がある。また、神城断層地震による既存集落のコミュニティ維持や防災体制の課題も挙げられていた。
→関連キーワード: コミュニティ・防災

■インタビュー結果から見えてきたこと

村民に対するインタビュー調査で得られた白馬村の魅力や課題の内容を整理すると、上記のような関連キーワード「農業」、「観光」、「教育・子育て」、「福祉・医療」、「コミュニティ・防災」というテーマが見えてきた。また、今後の白馬村の将来像、自分たちがやっていきたいこと、全体の意見に共通する視点として、「多様性」、「学び」といったキーワードも見られた。また、2月9日～11日の集中キャンプでは、こられるのテーマ設定に関連して、他の村民の方々からも意見をいただき、基本構想部分の目標設定、次年度の基本計画部分の検討の参考情報とする。

■インタビュー内容の分類内訳

質問項目	キーワード	内容（キーワードを表す代表的な意見を抽出）
白馬村の魅力	農業生産の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・「作っているものおいしい」ということ。白馬は気候が良いので、慣れていない人が作っても自然と美味しいものができる。白馬には食べ物をおいしくする環境がある。 ・民宿でのそば打ち体験が成功し「そばを育てて、製粉して、打つところまで」できるようになった。
	景観	<ul style="list-style-type: none"> ・景観の良さはやはり魅力。 ・白馬は山を所有地としている数少ない村。そこをうまく活用して再開発できれば、人の流れができると思う。 ・晴れた日に、山をぼーっと眺められるのが良い。 ・四季の変化を感じられる。白馬村から少し降りると雪が降らないが、雪は嫌だが、降らないのが良いとは思わない。 ・まずは山岳。小学校、中学校、高校なんかも、山みても綺麗だなんて思わなかったけど。ここ数年ぐらいからすごい環境にいるんだなって思いました。
	ブランド	<ul style="list-style-type: none"> ・外から見た、白馬のブランドイメージは高い。
	観光の歴史	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなでごはんを食べる民宿からはじまり→食堂→ペンションへと変化していった。（都会っぽくしたことが課題に思える、一緒にご飯を食べていた原点を忘れてしまっている。）
	スポーツ環境	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの面では、夏はマウンテンバイクやトレイルラン、冬はスキーと何でもできる環境がある。
	子ども	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒がとても落ち着いていて問題がない子ばかり。 ・非行は少ない。中学校がひとつしかないのも悪いことができないという点もある。見守りの目がある。
	子育て	<ul style="list-style-type: none"> ・都会の保育園に比べて敷地が広い。 ・保育園にいる親はあっさりした人が多く、揉め事が少ない。 ・学校や子どもを大事にする。 ・地元の子だ、ペンションの子だと差別することなく、どこから引っ越して来ても受け入れてくれる。 ・社協のベビーシッターサービス（11ヶ月まで）を利用。 ・いろんなお年寄りからいろんな話が聞ける、ここは宝庫だと思う。
	教育	<ul style="list-style-type: none"> ・白馬村の産業を教えるために、冬季の職場体験（スキー場やレストラン、雪かき）を実施している。 ・地域の方に隔週で放課後学習をしてもらっている。職員が面倒を見られない時（職員会議など）に数学と英

		<p>語、書き写し、読み聞かせをしてもらっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白馬国際トレイルラン、シッティングバレー、ハーフマラソンのボランティアに行く生徒は150人（7割程度）いる。年間を通して募集をかける。他にもハロウィンなど小さな活動にも個人単位で参加している。 ・松本の学校に行った子どもたちは決まったことを勉強するような感じだが、白馬の学校は自由にしてくれる。
	多様な文化・環境	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な国の人が観光で白馬を訪れるため、直接グローバルな異文化とふれあうことができ教育的な視点で見ても資源が豊富。 ・白馬が好きで移り住んできた人の力が感じられるというのが魅力。
	住居	<ul style="list-style-type: none"> ・ニュージーランドから見ると、麓では雪が降らないので、雪の中に住めることが凄い。また、国立公園なので住めない。
	コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> ・人口が少ない分、地域のみんなで分かり合っている。助け合うこともできる。 ・人が優しい。もう近所とかだと普通に帰り道に会ったら、車とかだったら「乗ってく？」みたいな感じで近所の人の家まで送ってくれたり。気軽に「お茶でも飲みなよ」みたいな感じで家に誘ってきたりとか、結構優しい方が多いなどというのはある。
	消防団	<ul style="list-style-type: none"> ・消防団に入るのが始めは責任感と義務感で嫌だったが、入るまでは年上との繋がりしか無かったのが、入ってからは年下とのコミュニティができて良かった。
	市民活動	<ul style="list-style-type: none"> ・市民活動がある。20団体程登録されている。高齢者の方が多い。 ・NPOが山や川をフィールドに学びと遊びの自然体験教室をしている。 ・なだれ救助 ・一人暮らしの方へお弁当の配達
白馬村の課題	農業生産者の意識	<ul style="list-style-type: none"> ・生産物売る場所を見つけられない生産者は多いし、6次産業の様なことに興味のない生産者も多いと思う。 ・農業に真剣になれないのは「観光に頼れる」と思っているから。「もし山がなかったら」という視点で考えないと今の状況は変わらないと思う。 ・最近では農業も改良して少しずつ良くなってきているが、白馬には特産品がない。 ・農業についてのビジョンがない。宿と兼業している人が大半で農業に対する意識が低い。宿で出せる量があ

		れば充分という考え。
	産業構造	<ul style="list-style-type: none"> ・観光でハードを作りすぎているのが良くない。観光業を減らして他の分野を盛り上げる必要がある。人口は2万人くらいになるといいと思う。 ・スキー人口が以前の半分になってインバウンドもやってみたが、減った日本人の数を満たすだけのものにはなっていない。 ・インバウンドのためのルール作りは必要だと思う。北海道のニセコのように開発だけ進み、ルールづくりが遅れてしまうことは避けたい。 ・スキー客の減少によって元気がなくなってしまっている。外国人観光客の経済効果がいつまで続くのか不安だ。 ・日本人が辞めた宿を、外国人が買い取ってしまい悲しいというか複雑。村が乗っ取られていく感じがする。村民は応援しているようにも見えるが、人が来ればそれで良いのか疑問に思う。
	観光業の連携	<ul style="list-style-type: none"> ・八方尾根だけではない「白馬バレー」として滞在型にして楽しめるようにするには横のつながりが足りない。 ・観光は白馬の生命線だと思うが、今の仕組みではいくらお金をかけてプランしても実行に移せないと思う。 ・青鬼で問題があり、カメラを持っていた観光客が写真を撮ろうと土手に入ってきた人に腹を立てて落としたことがあった。その時に、観光地としてのおもてなしとは考える必要があると村の人を集めて考えるようにしたことがあった。 ・いい観光資源があるが、宣伝がうまくない。また、スポンサーの選定も古い人脈のみで引き継がれていて良くないと感じている。プレスリリースもしっかりとしていく必要がある。
	景観	<ul style="list-style-type: none"> ・平屋根の建物や高層の建物が増え、景観が崩れてきている。 ・耕作放棄地が増えてきている。
	雇用	<ul style="list-style-type: none"> ・移住してきたいと思っている人はいるが、仕事がなかったり、収入が低いと感じている人が多くいる。
	後継者	<ul style="list-style-type: none"> ・観光には魅力を感じない子どもたちが多く、みんな外に働きに出てしまって後継者もいないのが観光の現状だ。
	スポーツ環境	<ul style="list-style-type: none"> ・スキーのジャンプ台やコースなどの設備は整っているが、維持管理者やスキー技術の指導者が少ない。
	子育て	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てに関しては働いているお母さんが子どもを預ける場所がないと思う。スキー場で滑る人だけでなく、働く

		<p>人の保育として一時保育が必要だと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未満児保育の枠が少なかったり、病児保育がないのが課題。いままでは需要がなかったかもしれないが、移住者が増えており、困っている人が増えている。 ・公園がない。雨になると遊びに行けるところがない。
	教育	<ul style="list-style-type: none"> ・本屋がないのが困る。大町に本だけ買いに行くこともある。図書館を充実させる必要がある。 ・教育が心配。中学の息子がいるが、教育面がネックで引っ越して来られない面もある。 ・白馬村の魅力を村民は捉えられているのか疑問。ずっと住んでいる人は良いところも、変なところにも気づかない。一度村外に出たほうがよい。 ・向学心が低い。教員も考えないといけない。指導、補習する時間の確保が難しい。家庭と学校が一体になって定着していく必要がある。 ・日本が教育輸出国になれるのか。スイスは寄宿学校が良いと聞く、経済効果が高くなる傾向も見られると聞いている。
	文化・芸術	<ul style="list-style-type: none"> ・民芸やアートがあるのにもかかわらずアプローチができていない。観光への肉付けになるはず。
	住居	<ul style="list-style-type: none"> ・移住者の居住先の確保。移住しようと思っていた時に、岩岳で探していて空き家があったが譲ってくれなかった。 ・観光客や家を建てようと思っている人の方がコアな情報を知っていて、住んでいる人はあまり知らない。 ・地域の人が売りに出した家を外国人が買っていてたまにトラブルになる。
	除雪	<ul style="list-style-type: none"> ・子どものいない家庭は将来除雪が課題になる。その時は白馬村をでる可能性がある。 ・除雪の課題がある。雪が降ると出かけることが少なくなり、閉じこもりがちになる。 ・民宿をやめたお年寄りの夫婦が、広い家で2人暮らしをしているケースが多く、住宅の維持管理や冬場の除雪、寒さなどの問題を抱えている人が多い。60代くらいで雪のない地域に移住する人もいるため、人口流出に拍車がかかっていると思う。
	交通	<ul style="list-style-type: none"> ・交通の便が悪い。JRの本数が年々減少している。村外の病院に行くには乗り継ぎが大変で一日がかりになる。 ・冬場の買い物は長野や糸魚川から移動式で来てもらうこ

		ともある。冬場は全く家から出ないお年寄りもいると思う。外に出かけること、出かけるために身支度をするということも介護予防には大事だと思う。
	里山管理	・里山の管理ができていない。木材を間伐する人もおらず、お金を出して引き取ってもらわないといけない。
	病院	・内科医の先生がいい歳なので病院がなくなるかどうか心配。旦那さんが既往症を持っているので、かかりつけの病院の近くの松本に移りたい。 ・大町病院には車で30分、あずみ病院には車で50分掛かる。車で病院に行く時は、ご近所同士で乗せていてもらうこともある。
	介護	・介護休暇の取り方や介護施設の体制が充分ではない。すごい勢いで表面化すると思われる。 ・介護の良い人材が集まらない。立地条件が悪い。冬季は宿の経営がメインになるので、従業員が減る。人が少ない中でサービスの質を下げないようにするのが難しい。夕飯の支度を手伝いに来てくれるだけでも助かる。 ・冬は雪下ろしや灯油やトイレに困るお年寄りも多い。雪の中の訪問介護は移動に時間もかかる。冬の間だけでも、空き家になったアパートや旅館でお年寄りが集まって暮らせるといいと思う。 ・障がいを持つ人が地域に出てきていないため、病気や介護などの早期発見ができない可能性がある。民生委員だけでは補いきれない。
	コミュニティ	・青年会議所のような学びの場が今はなくなってしまった。 ・29ある行政区に入らない人がいる。コミュニティの見直しをしなければいけないのではないか。地域コミュニティに入っているかで、被害の規模が変わる。I・Uターン者は入るきっかけが必要なのではないか。 ・若い者が村の発展を考え集まれる場所がない。白馬力はあるが、村はその意見をどう受け止めるのか。 ・住民税を払っているからといって何もしないで良いと思っている人がいるのが問題。 ・団体が多いが、外から見るとつながっていないように思う。 ・外国人は、地元の人とコミュニケーションをとっていない。
	防災	・国道より東は昔から住んでいる人、西は新しく越してきた人で分かれていて、震災の時の避難の傾向が顕著

		<p>に見られた。昔から住んでいる人たちはコミュニティがあり、誰がどこに住んでいるか把握しているのですぐに救出できた。消防団の方は、白馬村で火事の原因になる「豆炭」をどの家が使っているかを把握していたことので火事がなかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現場活動を手伝ってくれた外国人がいた。 ・防災の体制がよくなれば良い。防災無線での情報はなかった。民間のテレビの方が、情報が早かった。
どんな村になって欲しいか	農業の振興	<ul style="list-style-type: none"> ・「農業が基盤で観光がある」という風にしていきたい。 ・親世代が「楽しそうに農業をやっている」という雰囲気感じると子世代もつられて村に帰って来ると思う。 ・白馬で野菜を育てている人が、趣味のような仕事のような感じで収入を得ることで、少しだけ今までより楽しく余裕をもって暮らせるようになればと思う。 ・消費する側である旅館と生産者である農家の間に役場が入って、調整して地域をつないでいくことが必要ではないか。 ・生産するだけでなく、外から来た人が農業を体験できるような畑を整えて滞在できるという新しいことも必要なのではないか。
	観光の振興	<ul style="list-style-type: none"> ・雪のない夏も外国人観光客を呼べるようにしたい。経済効果だけでなく雇用の点からも、夏場がシーズンの自転車に注目が集まっている。 ・眺めを良くしないといけないまちなので、電柱や、景観ポイントを整備する等してほしい。まちの産業に直接繋がる。ニセコはすでに着手している。 ・ニセコから白馬へ移って来たように、流動的になることも考えられる。いろんな国の人にとって魅力的な場所であればいけない。地元の人とうまく関係できる状態の仕組みをつくっていかねばいけない。 ・村民一人ひとりが観光業に携わっているという意識をもつ必要がある。観光客が景色を見ながら車でゆっくり走っていても、クラクションを鳴らさない。 ・白馬村への郷土愛を持っていて、かつ金融系の知識もある人とともにアジアマーケットに強い観光地を目指していきたい。 ・駅に上に素敵なサロンがあって観光局があるといい。
	産業間の連携	<ul style="list-style-type: none"> ・業種を超えてエリアの特色を守っていける仕組みが必要だと思う。一番いいのは観光と農業がお互いに連携していけることだが、現在は業種を超えて話をする場がなく、

	<p>お互いの良いところが活かせていない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山や川だけでなく、各種団体があるので横の繋がりをつくりビジネスができると良い。
スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> ・実業団や大学生のトレーニングや宿泊利用の誘致。 ・マウンテンバイクで活躍しているジュニアの選手を伸ばしていける施設を整えたい。子どもたちに目標を与え活躍してもらうことで、将来白馬に感謝して戻ってきてくれるような循環をつくる必要があると思う。 ・村民が主体的にスポーツに取り組める環境を整えて、村全体が一体となってスポーツで盛り上がると思う。
教育	<ul style="list-style-type: none"> ・教育が不安なので向上すると良い。インターナショナルスクールをつくる動きがあるので、できれば入れたいと思っている。 ・10年後の若い世代はバイリンガルに育てほしい。 ・国際教育を充実させて、将来は若い世代が働けるようになると良い。
文化・芸術	<ul style="list-style-type: none"> ・アートの取り入れ（八方ごみ処理の近くではアート作品がある。あまり知られていない） ・民芸、古いものの掘り起こし。昔のよさを見直す。 ・20年以上住んでいる人、ミックスカップル、家だけ持っている人など、日本では例を見ない地域なので、どれだけの資源があるのかを、ずっと住んでいる人をはじめ、もっと知ってほしい。
障がい者	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な障がいを持つ人が、自分に合った場所を選んで通えるよう多様な障がい者施設があると良い。
コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> ・バブルのようにお金に執着するのではなく少し余裕のある「小金持ち」がたくさんいるようになるとういなと思っている。 ・「みんなで食っていける場所」にしたい。そうしないと人口がどんどん減ってしまう。 ・みんなが安心して暮らせるようになると良い。 ・10年後は、外国人の子どもが増えてもっと国際色豊かになっているのではないかと思う。 ・元気な70代位のお年寄りから協力者を募り、運転などお手伝いをしてもらえるようになるといいと思う。インバウンドの外国人も同様に協力できる仕組みがあるといい。ボランティアよりもう少し責任をもって、地域の仕事を役割分担できるといいと思う。 ・民生委員だけでなく、地域の人みんなで支え合えるしく

		<p>みをつくっていききたい。災害時だけでなく、それぞれの家族のライフイベントを支え合えるといいと思う。</p>
	防災訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・村全体で防災訓練をきちんとやりたい。ただやるのではなく、防災無線を使うことや、高齢者を誰が連れて行くのかなど備えをしっかりとしてやりたい。個人情報問題でできないというが、災害には個人情報もないと思う。
	行政と住民の協働	<ul style="list-style-type: none"> ・民間の人たちが一緒になって仕事できるようなセクションが役場の中にあればいいと思う。 ・一番やらないといけないことは「企画開発系の部署を役場につくる」ということ。
今後やってみたい活動	農産物の生産と販路	<ul style="list-style-type: none"> ・生産者から野菜を買い取って適正価格で売っていききたい。 ・村の人それぞれが作業を得意な分担して野菜を生産し、それぞれの作業に見合った対価を会社が払うというような仕組みを作っていききたい。 ・少ない生産量でも会社で買い取れる仕組みを作りたい。
	交通手段	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな交通手段を総括できる部門を観光局の中につくって、観光客からの問い合わせがあった場合は一番良い交通手段を提案できるような仕組みを作りたい。
	家庭菜園	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で作って採れた野菜を旅館で料理して出している。地域の評価を上げるためにそういったことをしていききたい。 ・空いている畑で農業をして小遣いにしたい。
	森林保護	<ul style="list-style-type: none"> ・森を残したいという思いがある。新たにやってきた人が木を伐採してホテルを建てたりしてしまう。
	スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> ・マウンテンバイクのトレーナーを増やしたい。人の土地に入らないモラルを守る。 ・スノーパークは冬のスキー設備だけでなくオールシーズン使える場所だということを広く伝えていくと同時に、スノーパークで練習している子どもたちが世界で活躍できるように指導したい。 ・クロスカントリースキーを通じて健康寿命を延ばすための取り組みをしたい。サイクリングロードを冬場はクロスカントリーのコースとして使えたらいいと思う。 ・レイルランをやっているので、今年6回目になりますが、これを白馬全体で、各地域を巻き込んで、つないでやりたいと思っている。
	学校設立	<ul style="list-style-type: none"> ・地域を巻き込んだインターナショナルスクールをつくる。 ・下の子どもはインターナショナルスクールに入れたい

		ので、それまでにつくりたい。
	人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土業は、何ができるのか良さをアピールして、企業にどれだけ役に立ってもらえるかを知ってもらいたい。 ・ 助成金のセミナーをしようと思っている。 ・ 白馬高校の観光課を設立するなら、職場として何かお手伝いさせてもらいたいと思っている。教育、観光の人材を育てたいと思っている。 ・ 村内外ボランティアに温度差があったので助けあいの養成をしたい。普段社協のボランティアに関わっていない人が来てくれて助かった。助けてくれた人とは今でも繋がりがある人がいる。 ・ 来年からコミュニティスクールを導入したい。地域の子どもは地域で育てる意識をもつ。どんな教育をしないといけないかを考える最先端をいきたい。 ・ 今自分がしていることを次の世代の後継者に引き継いでいきたい。20代はつながりがあるが、30代はあまりつながっていないので、この世代ともう少しつながりたい。 ・ 作業員として村民からボランティアを募集したり、村の地域活動センターを充実させることで、多くの人に施設の事や障がいを持った人の事を知ってもらいたい。特に仕事盛りの40~50代に偏見が多いと感じるので、その世代に訴えていく活動をしたい。
	防災	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災を目的に、住んでいる人マップを冬の間につくりたい。
	情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・ 村内の情報共有サイトを立ち上げたい。イベントを集約する。白馬には面白いイベントが多いが、誰がどこで何をやっているかが分からない。今までは新聞の折り込み告知をしていたが、若い世代は新聞をとっていない。

■村長インタビュー今回の計画に対する方向性・想いについて

- ・第4次総合計画の基本理念である「白馬の里にひと集い 暮らし健やか むらごと自然公園」の理念は継続していきたいと思っている。
- ・白馬村に各集落の歴史文化は、ありがたいことに昔と変わらない状態で残っている。この貴重な資産を今後も継承できるようにしていきたい。
- ・観光立村として、村民全体が一つとなって来村されるお客様におもてなし出来るようにしていきたい。
- ・白馬に住む全員が、「住んで良かった」「生まれて良かった」「来て良かった」と思えるようにしたい。
- ・外国人移住者の子供たちが、今後、村の中でも大きく増えていくことが予想されるので、分け隔てなく、白馬の子どもたちとして、地域全体で育てていけるようにしていきたい。
- ・世界に誇れる山岳リゾートとして、施設・制度サービス・の向上をしていくために、村としても支援していきたいと思っている。
- ・農業の多面的機能というのを、もう一度思い出して、新しい特産品を作ることも大事だが、白馬にある豊かな景観や文化というのも大切に引き継いでいけるようにしていきたい。
- ・図書館施設の拡充については、これまでも住民の皆さんからお話を伺っており、私自身としても取り組むべき事業だと思っている。
- ・地の物の販売、地域の人達の交流、歴史文化の継承の場として道の駅を作る事業も検討している。
- ・色々な地域から移住してきている方々が多い村なので、それぞれの皆さんの知識、経験が村の活性化につながるように行政としても、推進する仕組みを構築することを考えている。

白馬村第5次総合計画 アイデアキャンプについて

アイデアキャンプ目的・概要

基本構想部分の具体的な内容の検討あたって、村民の皆さんの想いや考え方を把握するために、「白馬アイデアキャンプ」と称したワークショップを実施した。日中帯、夜と、出来るだけ村民の方にいらっしやってもらうように3日間開催し、個別インタビューで見えてきたテーマに対して具体的に意見交換をした。

日時：平成28年2月9日(火)～2月11日(木)

会場：白馬村健康福祉ふれあいセンター

目的：白馬村の村民たちの村への想いや考え方などを把握する。個別インタビューについて整理した各テーマに関して、意見内容を把握する。基本構想部分、来年度以降の基本計画部分の参考情報とする。

対象者：白馬村にお住まいの方(計58名)

実施方法：カフェ形式(カフェタイム)、ワークショップ形式(キャンプタイム)に時間帯を分けて実施。農業、観光、教育・子育て、福祉・医療、コミュニティ・防災というテーマを設定し、「こんな村になったらいい白馬(赤カード)」、「気になっていること・困っていること白馬(青カード)」のそれぞれに意見を記入。



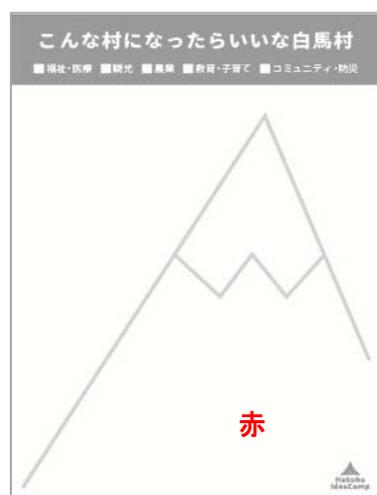
カフェの様子



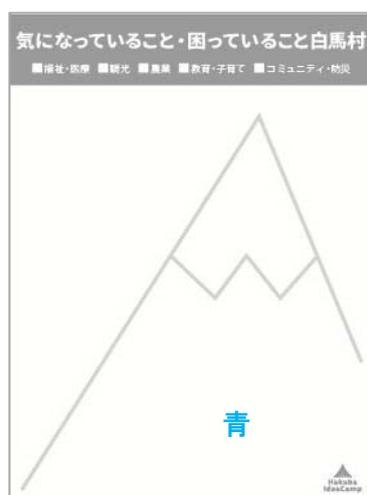
キャンプの様子1



キャンプの様子2



カード1



カード2



意見の結果

アイデアキャンプまとめ

キャンプの結果を以下に整理する。

■キャンプ結果の要約

<農業>

赤カード：耕作放棄地が増えてきている現状から、田園風景を維持するためにも、田んぼや野菜の生産が維持できる仕組みが必要という意見が多かった。特に、白馬産の生産物としてのブランド化を観光と連携して進めて、農業で生活が成り立つようにしていく。気候に適した果樹栽培を増やすことも挙げられていた。

青カード：農業で収入を得るのが難しく、後継者も不足し、耕作放棄地が増えているという意見が多かった。気候の関係から栽培できる果物なども制限されることから、特産品が少ないことという指摘も挙げられていた。

<観光>

赤カード：白馬が国際的なリゾートになるために、近隣のスキー施設、グリーンシーズンのプログラム、屋内施設、地元の食材、歴史文化などを連携させて、さらなるサービスの向上した方が良いという意見が多かった。

青カード：施設の老朽化、イベント情報の情報発信や共有不足、若者の雇用先不足など今後の観光業に対する懸念する意見が多かった。一方で、インバウンド向けだけでなく、村民が利用できる、参加できるプログラムや施設についての意見も挙がっていた。

<教育・子育て>

赤カード：豊かな自然環境、多種多様な人々が住んでいる地域の利点を生かして、大人から子どもまで交流しながら学びあっていく場、制度、仕組みが必要という意見が多かった。特に、海外からの定住者より交流して外国語の習得や白馬村の歴史文化を学ぶ機会が欲しいという意見が上がっていた。

青カード：未満児、病児保育の制度の充実や進学に関する選択肢が少ないなどの意見が多かった。同時に、これまでも出されていた、公園や図書館などのハード施設も整備してほしいという意見も挙げられていた。

<福祉・医療>

赤カード：福祉・医療施設と地域がもっと交流して、村全体で支えあいながら、歳をとっても村で楽しく暮らしていきたいという意見が多かった。例えば、家庭菜園、森林、温泉など地域の資源を使った活動を通して、健康づくり、外出促進をするという意見が挙がっていた。

青カード：今後も村で暮らしていく上で、移動手段の確保と冬期の除雪に対して不安に思っている意見が多かった。一方で、外国からの定住者も10年後、医療・福祉が必要となることが予測されるので、出身国の制度を調査し、組み入れていくことも必要という意見も挙がっていた。

<コミュニティ・防災>

赤カード：昔から住んでいる住民、国内で移住してきた住民、外国からきた住民など、様々な背景を持った人たちが構成しているコミュニティからか、いかにつながり・交流を持っていくかという意見が多かった。その上で、地震の時に力を発揮した地域のつながりを維持して、防災に備えていくという意見も挙がっていた。

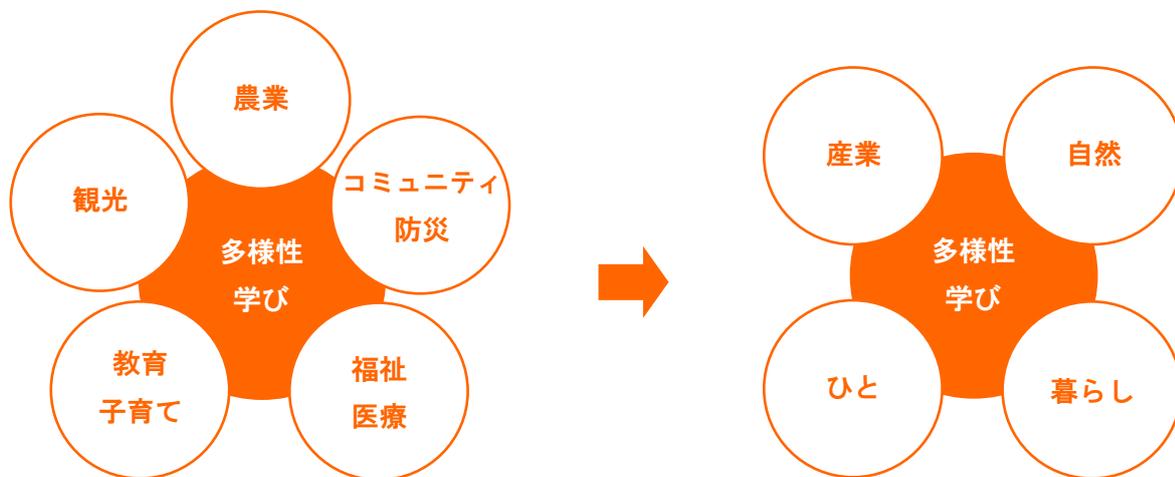
青カード：様々な背景を持った人たちが住んでいる村となった結果、区に入らない、区費を払わない、ゴミの問題も出ているなど、多様化している暮らし方による弊害に関する意見が多かった。つながりが希薄化することによる、情報共有、防災への意識低下を懸念する意見も挙がっていた。

■キャンプ結果から見えてきたこと

個別インタビュー内容を加味して設定したテーマ「農業」、「観光」、「教育・子育て」、「福祉・医療」、「コミュニティ・防災」をもとに意見交換した結果、各テーマに共通する軸が見えてきた。「農業」、「観光」については、新しい仕事創出という観点から「産業」という軸が見えてくる。「教育・子育て」、「コミュニティ・防災」については、様々な人が住んでいる中で交流し、そこでの暮らしを支えあっていくということで「ひと」、「暮らし」という軸が見えてくる。そして、5つのテーマにそれぞれ共通しているものとして、白馬の豊かな景観が出てくることから「自然」という軸もあるのがわかる。

そして、その4つの軸を推進していく根源的な力になる、もしくは暮らしていることで無意識的に認識されている「多様性」、「学び」がキーワードになっていることが再認識できた。これらの4つの軸と2つのキーワードを土台に基本構想部分のキャッチフレーズと基本目標を設定することとした。

■イメージ図



■キャンプ内容の分類内訳

<農業 カフェタイム>

カード	内容
赤	農業をやりたい人が少ない面積でも農業を始められる仕組みがあったら。少ない収穫量でも売買しやすい仕組み。
赤	今、農業をしている高齢の方の野菜をもっと売ったりする場所やお手伝い、売るための支援があるといいなと。たくさん作りたいけど、余って困ると皆さんに言われます。
赤	米・農作物を白馬ブランドとして売っていく。一定の基準をチェックして、道の駅で売れるように。
赤	農家の人から子供たちに野菜の美味しさを伝える場が欲しい！勉強よりも大事かも！
赤	遊休農地や原野の利活用について。白馬に適した果樹などの栽培促進(例えば栗、梅)
青	農地を維持する人がいない。
青	美しい風景が荒地になってしまっている。
青	地元の野菜を安く買ったりできるところが欲しい！

<農業 キャンプ 1日目>

カード	内容
赤	小規模農家が農業を維持できたらいいな→生きがい、健康、長生きにつながる
赤	陸わさびの振興、食用ほおずき、5-10年かけ白馬の美味しいお米の確立、農業で食べていける村
赤	白馬牛や豚があればいい、農業で食べられるような収入ができればいい。米以外の特産物ができればいい。
赤	移住している外国人に農業をしてもらおう。
赤	白馬高校で農業科。
赤	観光+農業、自給自足無農薬、加工品ジャムジュース漬物、ふるさと納税。
赤	自分で作った野菜は美味しい、安心。
赤	大きな農業だけじゃなく、自家消費の農業をしやすい仕組みを作れば、耕作放棄地が減るのでは？
赤	一家に1つ、家庭菜園か花畑かプランターを作ろう！
赤	豊富な雪を利用した雪室で作物を保存、熟成させる。夏には雪を使ったイベント。自然エネルギーの活用。小水力発電。太陽光。
赤	美しい自然環境をいつまでも残して行ってもらいたい！田んぼや畑も白馬の自然景観の部！
青	農業を続けたいが、機械を買う収入が得られない。また家族の理解が得られない。
青	今年から観光農園オープン、耕作放棄地が増えている。高齢化、担い手が限定、特産品が余っている。
青	米以外の農作物があればいいな、気候の関係で果物ができない。耕作放棄地が多い、農業者が少くない、米以外の特産品が少ない(後継者不足)
青	儲かる農業がないため、離農者が多い。
青	耕作地を農業で何か良い方法はないか？水、自給自足の村のイメージ。
青	耕作する人で(後継者)がいなくなった時に農地の維持管理が不安。
青	耕作放棄地の増大→良好な田園風景の景観を保つ。農業用水を利用した小水力発電など自然エ

	エネルギーの活用。
青	耕作をやめると草が伸びてそのうちに木になって、荒れてしまう現状がある。

<農業 キャンプ 2日目>

カード	内容
赤	儲からない農業からさよなら！皆から羨ましがられる農業を作る。白馬ブランドとして人気が出ている。
赤	農作物のブランド化。
赤	白馬でしかできない食材があったらいいな。
赤	売り上手な村。
赤	野菜は皆がやっているけど果物もおいしいものができるといいな。
赤	昔のように皆で協力して農業に取り組む村。
赤	冬は観光、夏は農業というライフスタイルの確立(夏の観光も大事だけど)
赤	知産知消×所得向上の両立。
赤	楽をして稼げる農業経営の確立(年収1千万円)
青	農業法人を中心とした「みんなで農業」の村。
青	個々で頑張っていて、みんなで協力するようになれば良い。
青	採算性の近い農業経営(個人)
青	老後の生きがいとしての農業の形づくり。
青	畑で育てている野菜の上手な育てかたを教えてくださいませんか？
青	畑をもっていないけれどやりたい人はどうすればいいのか？体育館を借りるような感覚で畑を借りることはできないか。
青	1ターンの希望が沢山あるのに受け手がない
青	担い手後継者の育成。
青	農業後継者の不足。
青	売れる特産品づくり。
青	お金にならない＝農業というイメージ。
青	観光主体できたつげが農業にきた(メリット・デメリット双方)
青	観光と農業の結びつき(6次産業化)

<農業 キャンプ 3日目>

カード	内容
赤	村の自慢が産み出せる農業。
赤	農業=観光を考える、白馬村を初のカントリーウォークの村にする。
赤	農業の多様な価値観に応えられる村。
赤	農業法人の支援、荒廃地をなくす農業、生産とレストラン、地物で食を提供。
赤	観光と農業を主流としない若者が住みつき元気な村に(兼農)
赤	農産品(生産者)と観光等事業者のマッチングができて提供できる。

赤	ぶどう畑→ワインも作りもしたい。
赤	美しい水田と山の風景を大事に誇りに思える村に。
青	売り先の確保が難しい。
青	農地を持っていると経費しかかからない(負担)
青	農業で生活できない。
青	スポーツと農業の結びつけができていない。
青	六次産業化といっても役場関係者にノウハウがない加工販売等。
青	離農する人が多くなってきているような気がする。
青	地域地区のほ場整備を早くして下さい。
青	高齢者が多く、農業への意欲が失われている。
青	我が家の農地を守って(活用)いけるだろうか。
青	後継者問題、これからの農業収入で維持ができなく先が不安、個々が消費できる農業(畑作)
青	畑作業のノウハウが引き継がれていだろうか。

<観光 カフェタイム>

カード	内容
赤	ほおずきジュースについてもっと「白馬産」をアピールすればいい。「地元のもの」って。
赤	村民のスキーシーズン券。親は高くて子供は安くしているけど、、、
赤	インドアでスポーツができる場所。山岩リゾート。雨に弱い。
赤	インバウンドと言っても、ターゲット(中国、韓国、とかとか)を定めたら？
赤	みんな一致団結した方がいいのでは？
赤	リフトの性能をもっとよくしてほしい！（特にスカイラインは遠い！）
赤	リフトのスタッフ割を増やしてほしい！
赤	いつまでも景色のいい白馬村。
赤	公園等の屋外施設の充実(子供たちが運べる場所)
赤	天候が悪い時に観光できる。
赤	屋内の観光スポットがほしい。
赤	予算ありきの政策では、無駄。予算なしでもできる政策があるのではないか？(行政と住民との協力で)
赤	冬はスキー、夏はアウトドアスポーツが楽しめているが、天候が悪い時、屋内で楽しめる施設があったらいいなと思う。
赤	魅力を発信するキャッチコピー。
赤	情報発信(ブログ)の更新が止まっている。
赤	桜を植えていきたい。白馬はGWに開花する。PRを合わせて。
赤	グリーンシーズンをもっと活用して、認知度を上げるべき。
赤	手間暇かけて努力して白馬を全国区にしたい。
赤	雪があってもいい企業誘致。「白馬」というネームバリューでPRをし、いろいろな面で優遇する。
青	夏になると仕事がなくなってしまう。

青	オリンピックの施設を利用してイベントがあればいいのに！
青	天候、トレンドに左右される観光業は産業として危ういのでは？
青	村内事業者を優遇していると、村民、観光客に迷惑がかかる。
青	観光白書を図書館や役所で揃えてほしい！
青	外国人向けの条例がちゃんと機能しているのか？(家の前にピン等が置かれていて、不安)
青	飲食店マップが少ない気がします。

<観光 キャンプ 1 日目>

カード	内容
赤	観光業で白馬村の全員の人が幸福になれる村の型。
赤	村を訪れる人を笑顔で帰れる村。
赤	少人数でも遊べる施設。
赤	雨の日対策として充実した施設。
赤	アジア太平洋の人が山のリゾート、スノーリゾートと聞いて必ず、想像するリゾートへ。そしてその人たちを必ずファンにさせる。
赤	山岳観光の聖地(ブランド)化。
赤	地域ごとにテーマ(特色)ある体験ができる。
赤	それぞれの宿のいいところを生かした経営を行い、様々なお客様に来ていただく。気軽な宿から高級リゾートまで幅広い受け入れができる。
赤	観光客ばかりではなく、住民、地域の人々も安価にレジャーを楽しめる村になってほしい。
赤	施設の有効活用、トレーニング、レクリエーション、クロスカントリースキーを楽しむ場所(村)
赤	山の中での(授業)体験があるといい！
赤	老若男女、外国人も楽しめる温泉街。歩いて楽しめる街。
赤	自転車、ロードマウンテン。
赤	ほおずき、おかわさび、名産品を活かしていく！(花がキレイ！根を茎、葉っぱまで食べられる！！)
青	白馬村を理想の村にするときのその方法を全体で議論したい。
青	行政のあり方。本当に観光業でこの村は成立することができるのか？
青	お客様の視点に立ったサービスではなく、サプライヤーとしての視点を優先させる。
青	各種インフラ(バス、リフト)を整備するお金が足りない。エリアとしてこれを改修するお金がない。
青	1990 年ごろまではペンションが多く観光に携わる人が多かった。年寄りが多く山手いく家が多くなった。若い人たちはここから出て行く。白馬高校に期待。
青	夏場の体育館等、合宿で埋まってしまっていて、家族で遊ぶことができない。
青	雨天時の遊び場所の不足(お客さんにやさしい観光地なのかどうか？)
青	シーズンオフが長い。
青	ジャンプ大会など、すごい大会であるにもかかわらず、知らなかったことが多々ある。マイナースポーツだとやはり集客力に劣る。
青	各種団体が独自に動いているだけの感がある。情報の発信力をどのやったらつけていけるか？
青	施設の老朽化、新設等投資ができるのか？外国人経営者との共生できるか？民泊ってどうなの？
青	住民として地域で商品、サービス受けにくい。

青	自己評価が低い。
青	足(車)がない。
青	下記の働き手の需要は？
青	夏に何回も遊べることがない。

<観光 キャンプ 2日目>

カード	内容
赤	東アジアの山岳リゾート(商用は世界、グローバル化)世界水準。 統一性のある開発が必要。 各集落においての世界に通じるイベントの開催。
赤	オフシーズンの遊びや雇用
赤	都会でバリバリ働くのではなく、のんびり働ける環境がある
赤	村民と外国人との交流ができる場があると良い→英語や文化を学ぶ
赤	外国人の国籍を増やしたい
赤	飲食店ではメニューの英語表記に合わせて使われている食材の標記も必要(外国人は何を使っているかを気にする)
赤	ビューポイントの情報案内があると良い。
赤	見る観光(絵を描く、写真を撮る)の充実を図る→村民が知っているポイントの紹介。
赤	映画やドラマなどの撮影の舞台としての活用。
赤	屋内で1日スポーツができる。
赤	夏場のスポーツ(自転車)
赤	グリーンシーズンの遊びを屋内でできるところ(雨天時)がほしい。
赤	村民や家族向けに手軽にガイド・インストラクター付きで観光を楽しめると良い。
青	大きな枠組でのなすべき観光のあり方がない。50年前のシステムがそのまま現在にいたる。
青	年間を通じての世界的イベントの開催がない。
青	通年では働ける仕事が限られている。
青	白馬で働きたい子どもはいるが雇用がない。
青	情報の集約が必要。
青	外国人への情報発信。
青	情報を集約する仕組みが弱い。
青	外国人が多い割には、多言語対応が進んでいない(ばらつきがある)
青	自然はあるが、子どもの遊び場がグリーンスポーツの森ぐらいしかない。

<観光 キャンプ 3日目>

カード	内容
赤	白馬村に村営の温泉やイベント会場ができると良い。
赤	旧車の集いやラリーの開催。糸魚川の9月第1日曜日はとても有名でもう27年目(確か)

赤	マウンテンバイクの大会を毎年開催できるような環境づくり。みねかたスキー場のコースはとても良い。
赤	山全体に桜やカエデを植えて春、秋を飾る。
赤	自然＝白馬＝山をバックにした美しいまちづくり。 里山の整備が遅れていないか。美しい三山を活かした村づくり。
赤	北アルプスゴールデンコースの企画がありましたがどうなっているのか。高山市、古河町には沢山の人が訪れてくる。その人達を引いてくる。雪がなくてもお客様が訪れてくれるようなまちづくり。
赤	スキー場の一元化。周遊可能ではないか(1日の中で)
赤	美術館を作って展示会を開くと人が集まると思う。
赤	スキー場を牧場にする。
赤	そばを育てる。
赤	インバウンドも良いが、日本人が沢山訪れる村にしたい。
赤	食文化と外国人との交流。おやき作りとか地元の野菜を使って料理をしてみたい。
赤	イベント参加について、利用の方にも覚えていただいて一緒に踊ったり、歌ったりしていきたい。特に塩の道まつり、盆踊り、運動会、文化祭、山の日などへ参加していきたい。
赤	白馬の伝統芸能を行事(イベント)に取り入れていってほしい。白馬小唄。
赤	白馬高校観光学科の生徒は地域にでて交流をしてほしい。
赤	総合計画は行政主導ではなく、全村民が話し合いでつくる。
赤	八方のマスタープランは楽しみです。100 活運動も期待しています。
赤	村民意見の集約に最も重要。わたしは KJ 法で集約する。
赤	リゾート HAKUBA の現状と未来を読もう。報告者ミシエル・クワノン。
青	JR の本数が減っている。
青	有名な絵の先生はいるが展示の場がない。
青	エコランド近隣のペンションに売りが出ている。この 1 年で 10 件程。
青	住民にはリフト代を安く設定してほしい。
青	村内の子どもたちのスキーをする人口が減っている。
青	外食難民を無くしたい。
青	パッと食べられる食資源が少ない。そばガレットやそばクレープは初めているが数が少ない。
青	日本の民謡を白馬でやる人達が無くなってしまおうということで、2 年前から白馬で生まれ育ち、現在ブロの民謡歌手に来ていただいて教室を開講していますが、もっと多勢参加していただきたい。
青	イベントを盛り上げるための催しとして、白馬小唄を唄い、音楽、踊りを老若男女、子どもたち皆が踊れるようになって欲しい。また、現在 70 代～80 代の少人数がやっているのが大勢のグループができると良い。
青	イベント参加について、ぜひ白馬高校の皆さんに出していただけよう働きかけていきたい。
青	白馬高校観光学科も 15 年かかってできた。
青	現在それぞれの団体と繋がっている婦人会、行政などが脱会していつている。村としての考えが知りたい。

<教育・子育て カフェタイム>

カード	内容
赤	大人から子供たちに白馬の魅力を伝える場があるといいな！
赤	子供が遊べる場所があるといいと思います。
赤	子供に無料で勉強を教えてくれる場所があったらいいと思う。
赤	川辺で遊べる場所があれば。
赤	子供の一時預かりをスムーズに行える施設が欲しい(私設でも嬉しい)。野外保育園があるといいな。 Ex.夏の園所は山の中とか、英会話教室の充実
赤	仕事が終わったあと、外国人の方から英語を教わりたい！大人も学びを続けたい！
赤	村全体が遊び場になる！自然が多い！ファミサポ制度があり、村全体で子育てができる！
赤	図書館に子供のためのスペースがあったら、、、(くつを脱いであがれるような場所)
赤	遊具のある公園があったら、、、小さな子供たちが集まれる場所が欲しい！
赤	子供のリフト代を下げ、将来のスポーツ選手を育てやすい環境に
赤	山のことや雪のことがわかる「白馬らしい」図書館があるといい！
赤	白馬高校の観光学科のカリキュラムを住民と一緒に作っていく！観光業を営む人。
赤	外国人なども自由に利用出来る図書館の新築(村民が自由に沢山利用出来る図書館)
赤	白馬の圧倒的な自然環境の素晴らしさを活かして世界中から生徒を集まるインターナショナルスクールの創設を！世界中の子供に来てもらえれば、観光にも絶大なメリットがあるはず。目指せスイスのボーディングスクール！
赤	白馬高校、スキーだけでなく進学面でも県内外から生徒を集められる学校になるよう、さらなる魅力化に期待！
青	子供用のスキー用品を中古で流通させる仕組みが欲しい！
青	子供が出来た時、育てる環境が整っているか不安！働きながら、不安なく子育てできるのか？保育園は十分にあるか？
青	子供が遊ぶ場所がない。体育館。公園のように気軽に遊べるといいな！
青	病院(産婦人科)がない。
青	住んでいて得られる方法がHPとかに限られてしまう。
青	交通量が多くて、子供にとっては危ない。
青	未満児を見てくれる場所がない。待機児童が増えてきた。
青	小学生でも、遊べる場所。異年齢で遊べて、お兄ちゃんたちに「タテ」のつながりがあるといい。

<教育・子育て キャンプ 1日目>

カード	内容
赤	ここにいていろいろなことが経験できて、将来を考える時に役に立てることができる。
赤	大勢の人が一人の子供を見守れる大勢が整った村に。
赤	困っている人を助けてあげる。そんな人がたくさん住む村になったらいいね。

赤	気軽に寄れる場所が欲しい、お家のような場所、学校の送り迎えができると安全。
赤	大学生以上が学習・研究できる図書館のある村、白馬といえば学術というほどに。
赤	小学校から英語を教えたらいい。
赤	南小裏山スキー場がある。20年は続くこと。
赤	村民、移住した人、外国人が楽しく学べる学区ができるといいな。インターナショナルスクールを無理に作らなくても白馬村の10年後は北小、南小がインターナショナルスクールになれる。
赤	子供が生まれたら村内放送して欲しい。
赤	ファミサポの充実、病児保育、看護婦。
赤	特技 T、TT の先生が各学校にしっかり入るといいなあ。(さらなる充実を願う)
赤	総合大学ができたらいいな。(大自然の中での勉学。)全寮制。全国、海外からも来る。先行はスポーツ、医学、など)
青	子供達が経験できるものが限られている。
青	子育てで困っている人、病気で困っている人、介護で困っている人、などの人たちのことを他人事のように思っている人がいるのが切ない。
青	進学の希望する者にとって、選択肢が限られてしまう。特に学習塾へ通うことができないため、河合塾、東進等年と講義が台頭してきている。予備校が1つでもあれば、教育等の問題は大きく変わると思う。
青	高校進学になると村外へ行ってしまふ子が多い。
青	未満児の待機児童、10ヶ月しか預けられない、病気の時預けられない、夜間の保育環境ない、日祝など、ファミサポのより良い利用方法が必要？
青	雨の時に遊ぶ場所がない。
青	集う所がない。
青	図書館の種類が少ない、雑誌が貸し出せない。
青	いろいろな情報共有の場がない。
青	高校生、大学生にふさわしい図書館蔵書が少ない、図書館が小さすぎる。
青	大学へ行った後、村で働ける場所の確保。
青	子供が遊び方がわからない。
青	子供たちが外で遊んでいない。ミミズク公園でもこどもが遊んでいる姿をほとんど見かけたことがない。もっと自然、アウトドアを楽しんでもいいのでは？
青	高校の選択肢少ない。
青	白馬高校の内容が変わっていいことですが、地元のこどもが地元の高校へ進学させたくない考えが多かった。遠距離の子は白馬高校しか行けない。カリキュラムの検討を望む。H28~変わる高校が楽しみ。

<教育・子育て キャンプ 2日目>

カード	内容
赤	いろいろなことを体験できる機会(自然・福祉・あそび etc)
赤	生きる力・お互いのことを思いやる事ができる心を地域みんなで育てていく。
赤	幅広い世代が交流できて地域みんなではくばっ子を育てる村になったらいいな。

赤	いろいろな年代の子どもたちが集まって遊べる場所があれば！
赤	学校の体育館くらい大きな屋内遊具施設と図書館が併設されたものが欲しい(子どもの為)公園もほしいけど冬の積雪対応や雨天の朝ビバの確保ということであえて屋内！
赤	・英語が話せる人が多い村。 ・外国人と日本人がうまく共存している村。 ・村にいながら大学受験対策がしっかりできる体制が整っている。 ・村を出て行くにしろ白馬村に育ててもらったという感覚がある。
赤	白馬ジャンプ競技場の観客席を改修してミディアムヒルとスモールヒルにしては？
赤	白馬高校に公営塾ができたが、将来的に小学生と中学生も通えたら良いと思う。
赤	白馬高校…スキーだけでなく進学面をもっとアピールできる体制づくりがしっかり構築されれば良いと思う。
青	発達障害に対する理解。支え合える地域に！
青	病児を預けられるところが欲しい。
青	産科のある病院、クリニックまで片道 60 分→交通費の補助が欲しい。
青	・英語を学びたい日本人と日本語を学びたい外国人のマッチング ・本屋がない ・村に関心がない？ ・情報を気軽に手に入れる事ができない
青	実際にある教育の需要と供給のマッチング機会がない。
青	子どもが外で遊ぶ姿があまり見られない、元気に遊びまわる場所があればいいな。
青	白馬高校に対するイメージ向上を！「スキーやらなきや行く意味ないでしょ？」からの脱却を！

<教育・子育て キャンプ 3 日目>

カード	内容
赤	英語を普通に話せる小学生がいる強み。
赤	多様性(地域性)を活かした教育、小中学校で英語取得。白馬高校は英語を使って+αの技能を！
赤	定住している外国人が多くいると思うので交流の場が欲しいと思う。
赤	日本語・英語 教え合う。
赤	「教育立村」と胸を張って言えるように！
赤	公立小中学校でIBプログラム。教育の村・教育先進地。
赤	インターナショナルスクールも含めて教育移住の聖地としての環境整備。
赤	小→中→高→大へと学力の不足なく自分の可能性を広げられるように。
赤	地域の人が普通に教育に関心を持つように。
赤	camp のような場所が欲しい。
赤	移住者を地元の人がお互いに学び会える機会。
赤	大人も子どもも学び続ける村(豊かな維持には観光も福祉も学び続けないと！ 都市部に負けない社会教育の機会、遠隔も含めて)
赤	白馬村の素晴らしさを子どもたちに植え付けるような教育が必要！

赤	子どもは宝！地域で育てる。元〇〇の人がいっぱいいる！
赤	教育先進を目指す！（教育環境は整っている。指導者？）
赤	学校と村の方々が交流を深め協力しているいろいろな事ができるといいですね。
青	場をつくってもつながらない、つなげる人が欲しい。
青	話せる英語を学べるようになればいいなあ。
青	WEB の危険性を教えてもらいたいなあ。
青	～高校生くらいまでの子たちに社会の仕組みや制度を教えてもらいたいなあ。
青	もっと自分の体を知る教育の機会があればいいなあ。
青	未就学児の遊び場・公園整備→グリーンスポーツなど 雨の日も遊べれば…
青	図書館が不十分。文化財が保護されない。
青	様々な配慮を必要とされる子どもたちや大人を支援する体制や施設が整備されるといいですね。
青	本をいっぱい読む教育してほしいなあ。
青	地域の人の実際の暮らしや知恵を「普通に」学べる機会があればなあ。
青	病児保育(村でやる？民間支援？)

<福祉・医療 カフェタイム>

カード	内容
赤	赤松がペレットの材料として最適。障害をもたれている人でも製造できる。→地産地消で雇用促進。
赤	アラサー世代の人たちが帰ってきているようなので、季節に関係なく安定的に働ける場所があったらいい。
赤	オンデマンドバスがお年寄りだけでなく、すべての人(通学等)が使えるようになってもらいたい。
赤	ご年配の方の知恵をもっと活用できる場所があるといいなあ。小さい子との関わりとか。
赤	スキー選手が多く、スポーツ医療に強いのでは？
赤	誰もが健康で明るくいいきと生活できる(その人らしい生活ができる)笑顔あふれる村になったらいいな～
赤	優しい、思いやりのある人がたくさんいて、困っている人がいたらお互い助けあえる村。
青	住民と専門職や行政等、意見交換や、より良い地域について、話せる場があると良い。
青	介護施設の不足。
青	急な時の夜間の病院の充実。大町病院でも対応してくれない時が多くて困る。
青	交通の便が良くない！長野に行きやすい小型のバスがあればいいのに！
青	耳鼻科、眼科が少ない。
青	専門医が少なすぎる。
青	精神障害がある方の働く場所や、楽しく通えるような場所が村内にほとんどない。若い障害の方の働く場がない。
青	近くに産婦人科がないから、子供を産む環境にない。(大町病院 30min)
青	聴覚障がい者や視覚障がい者の情報提供、活動者がいないとできなくなってしまう。活動者を増やすにはどうしたらいい？

青	定年後の「男性」が集まったり、交流できる場が必要。保育園などのボランティアでおいちゃんの知恵をもっと活用！
青	夜間の病院。

<福祉・医療 キャンプ 1日目>

カード	内容
赤	白馬メディアの利用者と地域の方がお祭り納涼会とを、これからも続けていきたい。
赤	専門的な医療機関がないため、すぐに診てもらえこともある。専門的なところを見てもらえる病院があったらいいと思う。
赤	NPO ボランティアが増えることで、働く場所、集える場ができればいい。NPO、ボランティアと村が協働できればより良い。
赤	専門家+help シェアリング。災害の時に助け隊が来てくれた。それを日常の活動につなげられないか。消防団組織はいいのだが、義務感が強すぎると、強制されているようで、活動も楽しくなるのでは？
赤	ヨボヨボになって友達付き合いができればいい。
赤	各集落に宅幼労所等集まれる場所が(空き家利用等)
赤	この村に住んでいるから大卒を受け入れる。
赤	高齢者が元気なものを作っていく。
赤	自立した高齢者→外に出たことない高齢者を外に出るようにしていく。
青	救急搬送先が近隣ではない+道路の整備。
青	火事など消防団の方は迅速に動いていたが、水が間に合わない事例があった。それを目の当たりにして消火栓の設置が必要であると思う。
青	施設利用をさせていただいたが利用者の状態によって難しいと感じた。周りの住民になるべく関わらせないようにしてしまう。
青	除雪の支援は続けて欲しい。
青	空き家、お墓はどうする。
青	総合病院が+待ち時間が長い。
青	移動手段、除雪。冬に生きられるか。
青	デマンドがあっても利用者を広げていけたら。
青	買い物難民が出てきそう。
青	老人世帯だけになった時どうなるのか。
青	耳鼻科、小児科がない→小学生の親御さんは気にある。
青	老々介護が見え始めている。

<福祉・医療 キャンプ 2日目>

カード	内容
赤	健康でいるために一人一人が努力して、かかるお金を減らし、防げないことに(福祉)に使うお子合うお金を増やす。

赤	子ども達が村に残っても安心して子どもが産める環境が整備されているといい。
赤	高齢者、障がい者ともに生きがいがある。困ったときに支えられる。
赤	移住者があいさつできる関係。
赤	不便だけど白馬に住みたいと思える村。
赤	少しずつ身体を鍛える村。
赤	大町、白馬、小谷で連携取りながら出来る仕組み。
赤	福祉、医療のことをあまり気にせずにする村がいいな～
赤	老人を見守ることができる地区を作る。なるべく家で過ごせるように！
赤	温泉を活用した健康づくり。
赤	手軽に健康づくり(除雪などを関係させて)
青	雪、足、住まいが高齢者になったときに気になる。
青	村内の開業医が高齢になってきて、医師不足が心配。今から対策を考えていった方がよいのでは。
青	障がい者の移動支援。
青	除雪、観光と健康づくり。

<福祉・医療 キャンプ 3日目>

カード	内容
赤	10年後の白馬を考えるともっと高齢化が進むだろう。温暖化で雪不足になるかもしれないが、高齢者が雪の中で住むのは、また、認知症などでヘルパーが必要となったときに、除雪を仕事として請け負う人が必要になると思う。
赤	手作り料理をみんなで食べられる村(週 2～3 回)
赤	ピンピンこりりとなるようになりたい。
赤	グローバルな考え方を福祉政策にも取り入れて行ってほしい。
赤	温泉＋コミュニケーション。交流の場。村民価格で年間パスポートを作る。
赤	大北エリアを周遊するバスがあったらいいな～
赤	高齢世帯への支援サービスの充実(買い物、作業などの代行)→仕事化、NPOの設立、外国人の取り込み。
赤	働きながら食べ物も作られるような暮らし。
赤	農作業で治療するような仕組みがあったらいいな。
赤	森林セラピー→福祉＋観光を結びつける。
赤	味噌づくり。一年通して活動する。
赤	スキーやアウトドアの聖地としての医療体制の整備。
赤	小さい村だからこそできる障がい者福祉。一人一人のニーズに応える。
赤	住んで気持ち良い村(自然、水、山、星空)
赤	不便以上の想いがある白馬にある。生きていて楽しい。
赤	移動手段の充実(バス)福祉＋観光。
赤	村民福祉ヒッチハイク。
赤	外に出る気持ちが大事。
赤	みんなが知り合いのように助け合う意識づくり。

赤	障がい者が入れる温泉。
赤	見える介護。
青	外国人が定住していて、10年後にはそれぞれ歳をとる。それぞれの出身国の福祉や医療のやり方を白馬にも取り入れられるものもあると思う。それを取り入れ、白馬が日本中に発信できる福祉体制が出来ると良い。
青	介護者不足が予想される。
青	食事、買い物、話し相手不足などの課題がコミュニティ内で気になっていく。
青	墓地の数が不足する。
青	自家用車以外での病院、介護施設などへの移動がしにくい(デマンドタクシーの強化、周遊バスの運行)
青	高齢者の足の確保。
青	介護疲れ。
青	村外の医療にかかりたい場合に、買い物をしながらできるバスを定期的出してもらえると良い。

<コミュニティ・防災 カフェタイム>

カード	内容
赤	公共課題に対して、行政・事業者・住民が力を合わせ、分担できる、協議会や話し合いがほしい。
赤	外国人に対して、条例の周知を行ってほしい！(web、紙媒体)
赤	空き家を活用する若い人や外人さん呼び込めるといいなあ。
赤	除雪機がない家があるので、地区などで貸し出しなどがあればありがたい！高くても買えない家や高齢者などのために、、
赤	テレワークを受け入れる体制を整えて移住者を増やすべき。(住めば自然環境豊か)
赤	人口減少を小さくするため、若者の定住促進を図る。(県外などから)建物、畑を安価で提供。
赤	山のことや雪のことがわかる。「白馬らしい」図書館があるといい！
青	役場が行政区に事務を移管しすぎている。
青	年金受給者にとっては行政区の区費が高い！(年間2万5千円)区費が払えないとゴミが捨てられない。地域のつながりが希薄に。→行政区に入らない原因。
青	除雪の作業が遅い！
青	若い世代の「やりたい！」を温かく支援してもらえたら。(前例がない、やっても仕方ない。大人世代に阻まれていると聞くので、、、)
青	行政区に入っていないなくてもゴミ代として、5000円払っている。。ゴミだけでもっと安いのではないかな？
青	あと二年で清掃センターがなくなってしまう。
青	役場などからの情報がなかなかうまく伝わっていない。どのようにして情報を伝えたらいいかが課題

<コミュニティ・防災 1日目>

カード	内容
赤	集落支援員等、お祭り、普請など維持管理ができる集落があればいい。
赤	集落がまとまってコンパクトなコミュニティができればいい。魅力のある地域。

赤	空き家の活用ペンションや別荘のオフシーズンの利用。
赤	伝統建築物青鬼集落(残すために様々な集落から協力者が集まる)
赤	空き家の情報が少ない(不動産情報)アパートなどもあいている所が少ない→新しいことをしたい若者が動きづらい。
赤	自主防災組織のしっかりした地区。皆さんが区に入り協力して地区をつくりあげる。
赤	雇用確保による若者の定着(昼夜問わず)、昼間は村外で働く若者が多い。小売・専門医。
赤	コミュニティを作るために産業が(仕事)大切！
赤	昔からのコミュニティが防災につながる！小さい頃からのつながり(近所のお祭りなど)
赤	世代を超えて集まる場所も！(温泉か、お酒も飲める)村のみんなで作る！
赤	同世代で集まるイベントや居場所があると次の世代につながる。
青	地区集落で役員のなり手がむずかしい維持することが大変←若者の仕事が少ない。
青	西…観光、東…農業 集落の特徴が異なる→行政区、地区に入っていない人が多い。(オフシーズンは帰ってしまう。インバウンドの外国人)
青	地域住民自身が自分達の住む地域の特徴わかっていない。まずは防災マップの普及。自分の住む地域を知る！
青	若い人が「住む」ための住宅が少ない。
青	知り合い同士で、空いているけど貸していない、商業ベースの情報にならない。
青	防災の意味で、外灯は区に加入している人で負担しており、不公平差がある。
青	車を持っていないと、移動できない。足の確保、デマンドタクシー、タイムリーでない。
青	日用品でも、買い物のできる場所がない。本屋が少ない。
青	公民館、基幹センター、宅幼老所、集まれる場所が必要。
青	公民館で実施されているイベントの情報が少ない。

<コミュニティ・防災 2日目>

カード	内容
赤	・協働社会 ・地域情報の共有化 ・コミュニティの場づくり(公園・サークル・社会食育 etc)←多様性
赤	いろいろな「場」がある村。
赤	新参者もすぐに地域に溶け込める体制が整っている。
赤	消防団は地域を知るための仕組み。
赤	移住者の歓迎会。
赤	行政区への自動参加。
赤	情報を取り入れやすい仕組み。
赤	・自分の持っている力がいかせる。 ・皆が持っている力をいかせる。
赤	移住者・外国人、多様性を活かす・売りにする。
赤	得手不得手を補い合うコミュニティ(野菜をあげる⇔除雪する)

赤	個人力を活かすプロデューサー。
赤	下の名前呼び合う。
赤	移住者も地元の言葉を使おう！
青	1ターナー者と地元の住民とが気楽に交流できる場がない。
青	・一人暮らしだと近所づきあいするきっかけがない。 ・一人暮らしだと除雪が大変
青	・区への未加入問題 ・行政とのかかわり方が分からない人がいる？ ・地域消防団の必要性が理解されていない ・行事・祭り etc への参加(特に若者・子どもがいない)
青	スポーツやサークルなどやりたい人がどこにいるのか分からない。
青	地域や行政とのかかわり方が分からない。
青	夏のしごとがないのでコミュニティができていく。
青	・昔ながらの組織が無くなっていく ・地域のつながりの良さと大変さ ・そこに住むための役割
青	個人の考え方の多様化(個人主義)=地域を必要としない人が増加=そういう人に限って知識や金持ち。
青	行政の地域への依存の限界←地域の力を借りている。
青	・地域の担い手不足 ・進学した子どもたちが戻ってこない理由は？

<コミュニティ・防災 3日目>

カード	内容
赤	昔のつながりづくり(地区)だけでなく、新しいコミュニティをつくる！
赤	消防団でつながりをつくる。
赤	最小の防災組織、地区消防団の活性化が必要。
赤	外国人のコミュニティと昔ながらのコミュニティを組み合わせる。
赤	外国人の移住者と行きつけの居酒屋などで交流できたら(気軽なきっかけ)
赤	八方スキー場の無料コーヒーがあり、コミュニティができる最高の場所。
赤	「お誘い隊」をまねしたい。(コーディネーター役や集落支援員)
赤	コーディネーター役を要請するところから始める。
赤	伝統文化を新しく来た人と一緒に守る。
赤	みんなで盛り上げる・役員のサポート役を置く。
赤	塩尻市はスマートフォンで防災や不審者など市のお知らせやイベント情報を読んでいる。それを参考に豪雨で水路があふれている等の情報を住民から寄せてもらう。行政からもイベントや危険情報などを双方向から流していく。
青	1ターナー組も地元組も自ら壁をつくっている？
青	コミュニティ間のコミュニケーション。

青	自分の意見を言わない(もっと主張しよう！)
青	新しい「観光」「移住」に注力して「昔からのもの」を忘れている。
青	地元の人が伝統文化を知らない。
青	公共の場(施設)がない。
青	「役員任せ」になっている。
青	避難所は本当に安全なのか？
青	松川・平川の危険雨量を明確に！
青	地域ごとに区費を徴収している。これを高い・安いという話を聞く。地区費を村全体で一律にして加不足分については議会行政費で考えていく。